

学校関係者評価委員会 報告書

会議名：学校関係者評価委員会

日時：令和元年 8月8日（木） 14：00～15：30

会場：専門学校デジタルアーツ仙台 1階 小会議室

【学校関係者評価委員】

氏名	所属等
委員長 渡邊 孝博	株式会社 オンサイト 代表取締役
副委員長 小野寺 千代志	株式会社 EAM 代表取締役
岸浪 行雄	株式会社 東北共立 代表取締役 (代理出席 株式会社東北共立 営業部部长 石川 智英)
武藤 政寿	公益社団法人 定禅寺ストリートジャズフェスティバル協会代表理事
大津 知士	株式会社 VISIT 東北 執行役員
金塚 弘	株式会社 メディアPR 代表取締役
菊地 新生	NPO 法人 とっておきの音楽祭 事務局長
山本 一平	(有)アノンピクチャーズ クリエイティブディレクター
落合 泰朗	本町新光町内会 会長
餅 祐一	卒業生 (俳優、タレント業)

【事務局】

氏名	所属等
戸叶 一人	専門学校デジタルアーツ仙台 教頭
櫻井 潤	専門学校デジタルアーツ仙台 教頭
井村 修	専門学校デジタルアーツ仙台 教務課長
鈴木 理	専門学校デジタルアーツ仙台 学生課長
三浦 和音	専門学校デジタルアーツ仙台 教諭 (書記)

渡邊委員長進行による自己評価に関する討議、意見交換

(1) 教育理念・目標

昨年度より評価が上がっている点についてどのような改善を行ったか

- ・保護者用のパンフレットを作るなどして広く周知徹底が出来ている
- ・今年度から情報システム科を設置し社会のニーズに沿った分野を取り入れた。

この分野についてまだまだ整備が必要にはなるが、定着できるよう徹底をしていきたい。

業界のニーズについて

- ・講師の派遣や現場見学等を行っている。卒業生が企業で中心の人物になっている。

(2) 学校運営

情報のシステム化による点に進展があるか

- ・グループウェアの使用を始めているが、まだ浸透していないので今後活用していく
- ・学生募集については、新システムを導入し、より高校生との接触が目に見えるようになった。今後の課題について、教員についてはオープンキャンパスについてのみの情報に触れる点が多いが今後は、他の接触情報についてもとりいれられるようにしたい。
- ・今後は入学後についても新システムの導入を検討し入学前から卒業に至るまでのサポートが出来るように改善していきたい。

(3) 教育活動

評価が上がっている点について

- ・シラバス、時間数の見直しを行い、各先生のプランが見える化。
- ・教員自身も研修等に積極的に参加するようになり、より授業に反映することが出来るようになった。

教育編成委員会について

- ・いかに学生に実践を積んでもらえるかというのを重点になる。

教員の研修について

- ・学校教員の研修受け入れについては能力開発専門の会社等を利用するのがよいのではないか
- ・新しい分野や新しい技術について、今後必要な部分になるので課題になるのではないか。

(4) 学修成果

就職率について

- ・キャリアサポートセンターが立ち上がり、菅原学園仙台地区4校で情報が共有できるようになった。
- ・学生に対し、求人票を見やすくし、キャリアサポートセンターで面談練習を行うなどで就職率を向上することが出来たのではないかと

除退率について

- ・本校は系列3校に比べ特に除退率が高く改善はしていきたい点である。
- ・学科により、除退率にばらつきがあり、状況に応じて担任面談の他に教頭面談を実施し、早めの対策を行っている。
- ・ハイパーQUを有効に活用し、フォローを行う。検査結果をもとに対策を行っている。
- ・カウンセラーについても、登校できない学生に対してではなく、学校へ登校しているが悩みを抱えている学生にも対応してもらおうようにしている。

卒業後のキャリア形成について

- ・企業訪問等も強化を行っており、企業によってはインターンシップを行わず、日々のアルバイトを行って企業で働いてもらい、正社員として採用している。

(5) 学生支援

評価があがっている点について

- ・キャリアサポートセンターと協力し整備することが出来ている

経済面について

- ・菅原学園奨学金の他、私立専修学校専門課程修学支援実証研究事業の対象校となっており、経済的な支援が必要な学生に対しては、学費の支払において経済的に国から支援を受けている。

国と協力し経済的支援を行っている。募集要項にも学費減免制度等を設けている。

保護者との連携について

- ・出席率等定期的に保護者に連絡を行っている。場合によっては保護者面談も行っている。

卒業生の支援体制について

- ・卒業後も担任とやり取りを行い、相談等も行っている。

高校との連携について

- ・高校側からの要請が多い。要請があれば、状況に応じて教員の派遣も行っている。
- ・学校の施設を使用し、発表や合同授業を行っている。

今年度の新たな取り組みと

- ・全学生の教頭面談を行っている。

教頭も全学生と接する機会を作り学校全体での学生支援を行う。

(6) 教育環境

地域連携について

- ・地域のイベント支援（本町夏まつりなど）を行うことで密接なコミュニケーションを行っている。
- ・近隣施設を使い、イベントを行っている。

防災について

- ・学校へ隣接する瀧沢神社に非常用の備えを準備している
- ・今後は校舎を避難所として使用してもらうことも今後想定し、連携を取っていきたい。

(7) 学生の受け入れ募集

募集について

- ・本校では適切に行われている。
- ・講師や専任教員とも協力し、どの分野に進むかを提示し、体験授業等を行っている。

(8) 財務

適正に行われている

(9) 法令等の遵守

適正に行われている。

(10) 社会貢献・地位貢献

- ・イベントで多く関わっている。
- ・仙台市民型参加型の音楽イベント（とっておきの音楽祭、定禅寺ストリートジャズフェスティバル、仙台ゴスペルフェスティバル）のステージ運営などに積極的に参加し学生達がイベントをサポートしている。
- ・学生がイベントなどに参加することにより、実践としての経験を積んでもらえていると考えている。

(11) 国際交流

留学生の受け入れ状況について

- ・ベトナム・ネパールからの留学生が多い。漢字圏からの受け入れは減っている。
- ・ミャンマーやバングラデシュ、スリランカからの留学生も増えている。
本校は適正校として認定を受けている。
- ・日本語学校に入学してくる学生が上記の国籍の学生が増えているため、学校としても出身国に合わせた展開を行っている。